



祐介の目

大田ゆうすけ No.74
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

モリカケ問題と
北朝鮮問題

先の衆院選の論点として、モリカケ問題を隠すな、北朝鮮とは圧力より対話すべきという議論があった。森友学園問題の焦点は、産業廃棄物が埋まった国有地が不当に安く払い下げられたか否かだ。

じつは福山市においても土壤汚染のあった土地を再利用した例がある。約30年前に日本化学が箕沖に移転した際に跡地や隣接する内港がPCB等の重金属で汚染されていた問題があった。汚染土の処理方法を巡って住民の反対運動も過熱したが、最終的に跡地はポータープラザ日化となり、内港は県が埋め立て、市が買い取り、今では福山市立大学となつている。汚染された土地の再生と活用には政治的な判断が多々必要だったろう。同様の例は全国に多数あるだろう。

次に加計学園と今治市が国家戦略特区を活用した獣医学

部の新設だ。私も構造改革特区を活用して福山市とワイン特区を申請した経験がある。「ワインを作りたいが最初から基準の6千以上は作れないので、小規模から始めたい」という事業者と「ぶどうの産地ゆえにワインのまちを目指したい」という福山市の思惑が一致して申請し、それを国が認可したわけだ。地方の声を国は無視できないし、忖度の余地も無かった。同様に、加戸前愛媛県知事も証言した深刻な獣医不足を解消したい今治市と、獣医学部を新設したいという加計学園がタッグを組んで国に求めた構造は福山市のそれと同じである。岩盤規制に風穴を開ける特区制度を批判することこそ行財政改革に逆行する。

最後に北朝鮮問題だが、対等の軍事力が無ければ対話が成立しないことは歴史が証明している。誰も知っているペリーの黒船による砲艦外交がそうだ。爆裂弾を発射できるペクサン砲を積んだ黒船が艦砲射撃をすれば、江戸は火の海になることは明らかだった。圧力に屈した幕府は数多くの不平等条約を結ぶことになったが、核ミサイルを向けた国と対話をして有利な条件を引き出すには、自衛隊を憲法に明記することが最低限必要だろう。